

地球惑星科学委員会（第 25 期・第 1 回）

議事要旨

日 時 2020 年 10 月 3 日(土) 13:30～16:45

会 場 日本学術会議 6階6-C(1) 会議室

出席者 矢野桂司, 沖大幹, 川村光*, 三枝信子, 佐竹健治, 田近英一, 中村卓司, 西弘嗣, 春山成子,
堀利栄 (10 名) (*オンライン出席)

欠席者 なし

議 事

- 1 役員の選出
- 2 第 181 回総会中に至急設置する分科会の承認について
- 3 日本学術会議会則第 27 条第 2 項の取り扱いについて
- 4 議事要旨の提出に関する委員長一任について
- 5 委員会委員間のメールアドレス共有について
- 6 分科会世話人の決定
- 7 連携会員説明会について
- 8 その他

議事要旨

議事に先立ち、田近委員(世話人)から開会挨拶がなされ、議事の内容が確認された。

世話人より、委員構成(資料1)について説明がなされ、続いて出席者による自己紹介が行われた。

1 役員の選出

委員長:世話人の田近委員の就任が承認された。

副委員長:委員長より佐竹委員が指名され、承認された。

幹事:委員長より春山委員と三枝委員が指名され、承認された。

2 第 181 回総会中に至急設置する分科会の承認について

委員長より、資料 2-1、2-2 に基づき、第 25 期に至急設置を要する分科会として IUGS 分科会と SCOR 分科会の設置提案書、委員候補者名簿、ならびに設置期間延長(令和 5 年 9 月 30 日まで)に係る提案書の内容が説明され、承認された。

3 日本学術会議会則第 27 条第 2 項の取り扱いについて

委員長より、資料 3-1 に基づき、当委員会に設置される分科会の議決に係る取り扱いについて、分科会の議決をもって委員会の議決とすることができるなどの説明がなされ、承認された。

4 議事要旨の提出に関する委員長一任について

委員長より、当委員会の議事要旨の提出については、議事要旨の案を所属委員へ回覧したのち、日本学術会議へ提出する前の最終版の承認を委員長に一任することについて説明がなされ、承認された。

5 委員会委員間のメールアドレス共有について

委員長より、今後の委員会活動において、メール審議を行うにあたり委員のメールアドレスを委員間で共有することが必要であることについて説明がなされ、共有が承認された。

6 分科会世話人の決定

委員長より、資料4に基づき各分科会の世話人案について説明がなされ、承認された。また、第24期において当委員会が他の委員会と合同で設置しているのは以下の4件であり、これらの設置趣意書が提出された場合、その趣旨が第24期から大きく変更されていなければ承認することが確認された。

- ・地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面(HD)分科会
- ・地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
- ・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会
- ・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会

7 連携会員説明会について

連携会員説明会には、委員長が出席して説明を行うことが承認された。

8 その他

分科会の進め方について以下の議論を行った。

- ・人数の多い分科会では、十分な議論ができていない場合があるのではないかと。意味のある議論ができる体制を今期の中に検討することにしてはどうか。
- ・連携会員説明会や分科会参加希望調査では、分科会で何を議論するのかがわかるようにした上で、参加したらその分科会の活動に積極的に参加してもらうことを周知し、参加する分科会を選んでもらうことにしてはどうか。
- ・分科会の進め方によっても工夫はできる。全体会議のあとで小グループに分かれて具体的な議論を行い、また全体会議に戻ってくるという方法もよいと思う。
- ・今期は、地球惑星科学委員会、人材育成分科会、社会貢献分科会、地球・人間圏分科会、地球・惑星圏分科会の5つについて連携会員の参加希望を募ることにしたい。

今後の活動に関し、以下の件について意見交換を行った。

- ・大型研究の検討については改めて相談したい。ワーキンググループをつくって検討する方法もある。
- ・JpGUユニオンセッションへのテーマ募集締切が11月4日なので、早急に案を出してほしい。
- ・次回は、10月末の2週間を目途に非公式の委員会をオンライン開催する方向で日程調整を行う。

- 学術会議会員任命の件で意見交換を行った。学術会議は社会に対し自ら透明性を高める議論を行うことや、学術会議の意義を理解してもらう必要があること、また、対話を継続するという姿勢が大事であるといった意見が述べられた。
- オープンデータ・オープンサイエンスの推進については、緊急の課題であるので担当する組織を設定して活動する予定である。